

ダラスのワーキング女子へエールを！

～DJCWのマンズリーメッセージ～

子どもの 日本語教育

皆さんはお子さんの日本語教育をどうされていますか。特に、補習校に通わない、まわりに日本語話者が親しくないない場合など、どうすればよいか迷っている人もいるかもしれませんね。

それは、娘が生まれた時、夫がアメリカ人で日本語を話す人が私しかないという我が家が直面した状況でした。私は永住権があり日本へ戻る予定はないのですが、娘にはぜひ日本語を身につけてほしいと思いました。私は日本語教師の資格を持ち、東京の日本語学校で教えた経験があり、また、我が家はホームスクールで融通が利くというプラス面はありましたが、試行錯誤しながら長年日本語を教えてきました。現在はオンライン通学をしている生徒さん多いと思うので、自宅での日本語学習について感じたことをまとめてみました。

幼児のパターン認識力を活用

育児中に何冊か本を読んだ「右脳教育」は、子どもには高いパターン認識力があり、インプットを多く与えるとすぐに覚えるというものでした。あまり実践できませんでしたが、少しでも漢字に活用しました。たとえば、幼稚園の頃、色に興味を示した時に「赤」「黄」「緑」などのカードを作って見せると、すぐ覚ええました。また、ずっと後には、部首の同じ漢字を多くインプットすると、意味の共通点や、右側のつくりが音読みに関連する場合が多いことなどが自分で少しずつ理解できるようになりました。

少しずつを継続する

幼稚園レベルでは絵本や歌のCDなどを利用していましたが、学習のレベルや内容は体系化されておらず、いきあたりばったりの方法でした。小学校低学年では日本の教科書を使っていたのですが、学校の授業を再現するのは困難で、私は教え方に行き詰まりを感じるようになりました。その突破口は2011年でした。当時、私はアメリカのくもん教室で働いていたので、里帰り中に軽い気持ちで実家近くのくもん教室を見学したのです。まったく思ってもいなかったのですが、その時に指

導者の先生が通信教育もできるとおっしゃるのです（これはその先生の「厚意」によるもので、くもんは組織としては海外への通信教育は実施していないそうです）。渡りに船とはこのことと、即入会。娘は小3でしたが、幼稚園レベルから自宅で少しずつ継続してプリントをやるうちに、実力がついていくのが実感できました。以来、くもんが日本語学習の中心になっていきます。プリントを徹底的に利用するため、まず内容を私が読み見本を示し、次に本人に読ませ、理解度の確認のため英訳させ、最後に問題を解くという流れを何年も続けました。現在は親の見本読みはなく、すぐプリントを読み解答します。プリントの問題はいろいろな形式があるので、プリントを解きながら少しずつ書く練習をすることもできます。

漢字は必須

話す・聞くだけではなく、読み書きの力も伸ばすには漢字が必須です。漢字環境ではない海外では、まず日常生活に漢字を取り入れて抵抗をなくするのがいいと思います。

大人がひらがなだけで書かれた文章を読もうとすると、その読みにくさを痛感するように、日本語の文章で漢字は重要な要素です。名詞や動詞、主語や述語を表す言葉の多くが漢字なので、漢字力は読解力に直結すると思います。

日本語の特徴の一つに同音異義語の多さがありますが、漢字はそれも区別してくれるものです。一般的に考えられている漢字の難易度は気にせず、たとえば子どもが好きなマンガに出てくる漢字を利用して、漢字の意味や熟語、同じ部首の他の漢字など、1漢字から学びをどんどん広げてゆくことができます。

音読で読解力を上げる

前述のように、私が地元のくもん教室に勤務していた時気づいたことですが、（英語の）読解力が弱い生徒は音読ができません。選択問題に正答していても、音読させてみると文章を理解していないのがわかります。「や」「う」などが何を指すか尋ねても答えられないし、区切りもうまく読めないのです。この点は日本語でも同じで、うまく音読できない箇所は意味がわかっていないことが多いので、音読は読解力を判断するのに役立つと思います。

また、日本語では同音異義語の区別の

ために音のピッチ（高低）が重要になります。「石」「医師」、「箸」「橋」など例は限りなくあります。音読によって文脈内での正しいピッチを学ぶことができ、音読をすればするほど、単語だけのピッチや前後のつながりによってピッチが変わる場合などを体感して身につけることができると思います。

いろいろな日本語に触れられる

くもんのプリントの内容は幅広いのですが話し言葉は少ないので、日本の番組やマンガなども利用しています。実際に使われている日本語のインプット量を増やすと、そこからパターンやルールが学べます。また、その中で出てきた新しい表現などをすぐに学ぶと、比較的簡単に覚えられると思います。

自分で学習できるまで支援する

基礎力がついて、子どもが自分で日本語を日本語で調べられるようになれば、もうしめたもの。読みたいマンガも観たいアニメも日本語で楽しめる、その楽しさが実感できるからです。そこまで支援してあげると後が楽です。それに、現在では無料で良質のリソースがたくさんあります。

私は最初から日本語を母語として教えるよう意識していたわけではありませんが、日本で育った自分がどう日本語を身につけたかを考えた時、日本語をできるだけ母語に近い形で教えたいと思った結果が現在につながったと思います。

こうして少しずつ培った日本語力を客観的にチェックするため、娘は2019年、高2の時に日本語能力試験（JLPT）のN1を受けました。JLPTは日本語を母語としない人向けのテストで、N5（初級）～N1（上級）の5レベルがあります。合格したので日本語能力が一定レベルにあることが確認できました。今では私との会話は日本語が中心で、マンガやアニメも日本語で楽しみ、日本の親戚とメールやLINEでやりとりしています。

これはあくまでも私の経験ですが、アメリカ在住日本人として、バイリンガルの利点を実感している人も多くいると思います。お子さんにも日本語を習得してもらい、将来生かしてほしいですね。

プロフィール

DJCW(Dallas Japanese Career Women)
ダラス在住の働く日本人女性2人が2018年に立ち上げた会。「ダラスにて頑張っている日本人のキャリア女性を応援し、ネットワークの場を作るう」という趣旨で、毎月イベントなどを通してネットワークの場を作っている。
メールアドレス: djcwomen@gmail.com
ウェブサイト: www.djcw.org